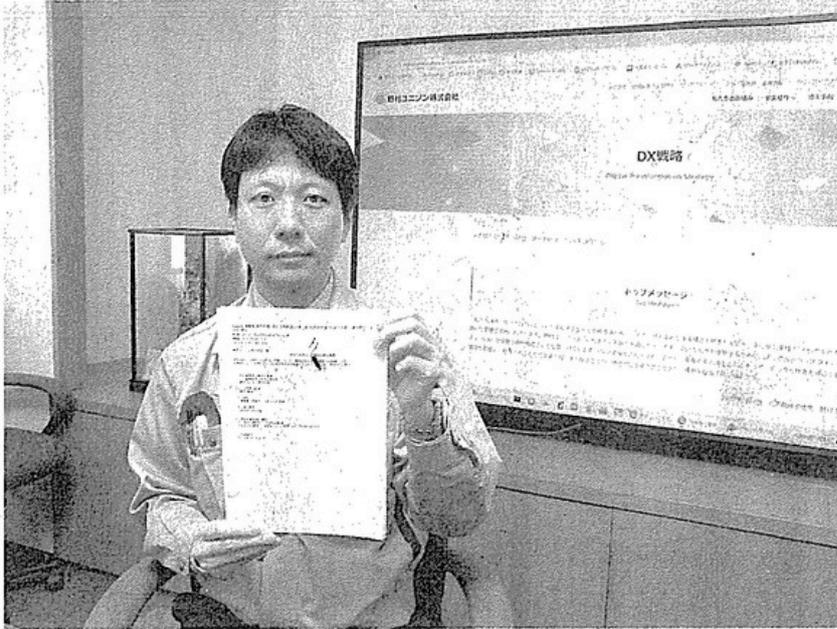


経産省の「DX認定事業者」

野村ユニソン選定



経済産業省のDX認定事業者に選定された野村ユニソンの野村社長

一般機械器具や産業用ロボットなど製造の野村ユニソン（茅野市ちの）が経済産業省が定める「DX認定事業者」に選定された。部門別の取り組みだったDXを全社挙げて推進し、業務プロセスの変革などにつなげている。（小尾口有二）

全社挙げて業務プロセス変革

DX認定制度は情報処理促進を国が認定する制度。県内製造業に基つき、DX推進企業一造業では4社目になる。認定

は12月1日付。

同社は今年4月に推進組織となるDX推進委員会を発足させるなど本格的に取り組みを始動。自社の技術とデジタルの融合でビジネスモデルの変革を実現するなどとしたDXビジョンを掲げ、実現するために▽デジタル技術による生産革新▽顧客価値の創出▽サプライチェーン（供給網）の最適化▽デジタル人材の育成と働き方改革▽持続可能な社会の実現―の5本柱を設定した。

生産革新の一つとして製造管理の現場で担当者が作業開始や終了をスマートフォンで通知すると、現場のモニターで誰もが共有できる仕組みを導入。一人ひとりの業務状況

をリアルタイムで「見える化」することで、作業の遅れに対応できるなど生産性向上につなげているという。

全社的にDXを進めるため全社員対象に意義や技術を伝えるリテラシー講座を開催している。水内義男・管理本部経営システム部執行役員部長は「社員が問題意識を持ち、こうすればもっとよくなる」というDXのアイデアを出し合っただけで課題解決に結び付けた」とする。

野村高城社長は「DXを推進することは、取引先に評価される重要な要素になる。選ばれた企業になるため、こう

した取り組みを強化して自社の強みにしたい」と話している。